

「少年の心のままに医師になつたような人」

大阪市生野区の会社役員、藤井和子さん(四三)は、昨秋、三十一歳で世を去つたAMD Aの小児科医、藤原明さんをこう表現した。

国により違ふ命の重さ

藤井さんは平成四年春に長女の萌(もえ)ちゃん(当時五)を白血病のため、入院先の関西医大付属病院で亡くした。藤原さんの最初の患者だった。

「少年の心のままに医師」
 っても寂しがりやの萌が泣かない。後で知りました。M D Aからの派遣で、ネパールに赴き、三カ月のブライに呼び出し毎晩、遊んでもらうていたんです」
 入院患者が亡くなると、は国によって違ふ」と友人



リンパ腫の治療にともなう副作用で、頭髪が抜ける前に、髪を剃った藤原さん

たとともに、ネパールに子ども病院をつくる夢を見始めた。

しかし、大きな壁が立ちはだかった。六年秋のリンパ腫(しゅ)の発病。入院のため、七年三月まで活動の中断を余儀なくされた。



藤原基金に関する問い合わせはAMD A(☎086・284・7730)へ。

協力は郵便振替〇二五〇一四〇七〇九(AMD A 藤原基金)

(社会部 吉村剛史)

平成五年暮れには国内の外国人のためのAMD A国で神戸大学に留学中のラメシ、認め合わなければ」
 活動への苦悩は結局、「相手の価値観を無視し、『かわいそう』と差し出す手が間違ひ。相互に理解し、認め合わなければ」
 開設などに奔走。このころ、AMD Aネパール代表
 シュワル・ポカレル医師(三